



今月の特集

糖尿病と歯周病の関係性



先月に続き、**糖尿病**と**歯周病**の関係についてお伝えします。

前月号は
こちら

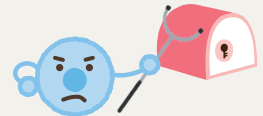


ドアを壊している犯人は歯周病??

歯肉の炎症である歯周病は、炎症に関連した化学物質を歯周ポケットから血管を經由して体の中に放出しています。歯周ポケット表面積は掌(てのひら)と同じ程度と考えられています。掌サイズの出血や膿が治療しないで放置され炎症性化学物質が細胞を壊していると考ええると、無視するわけにはいきません。ポケットから出て血流にのった炎症性化学物質は、体のなかで細胞のドアを壊していくため鍵(インスリン)があっても開け(効き)にくくします(**インスリン抵抗性**)。そのため、糖尿病が発症・進行しやすくなるのです。

ドアを壊している犯人を捕まえよう!

歯肉の炎症をコントロールできればインスリン抵抗性が改善し、血糖コントロールも改善するということが多くの臨床研究で報告されています。ドアを壊している犯人を減らし、細胞の建て付けを正常にするためです。



負のスパイラルの歯周病と糖尿病

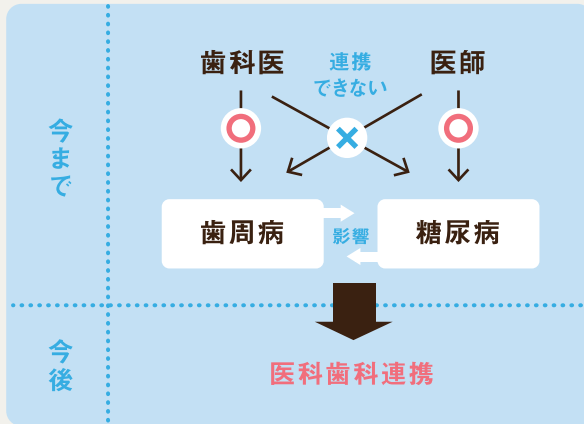
今までは、歯周病が糖尿病を進行させるため、歯周病の進行を妨げると、糖尿病の進行も妨げることができるようにお伝えしましたが、その逆、すなわち、**糖尿病が歯周病を進行させる**ということもわかっています。

「**歯周病**」には、炎症が歯肉に局限した「**歯肉炎**」と、歯を支えている歯槽骨が破壊されて歯を失ってしまう

「**歯周炎**」があります。糖尿病は、歯槽骨の吸収を促進させてしまうため、歯を支えている骨がどんどん脆くなり、結果的にポケットが深くなってしまいう悪循環を起こします。歯周病と糖尿病は、どちらか一方を改善しようとしても、他方がその改善を妨げようとするなかなか厄介なタッグなのです。



治療もタッグマッチ!



歯科医が歯周病を治そうとしても、相手は糖尿病とタッグを組んでいて、医師が糖尿病を治そうとしても、相手は歯周病とタッグを組んでいます。日本の医療制度は、医科・歯科が分業なので、今までタッグが組めていませんでした。しかし、病気がタッグマッチを挑んでいるのに、治療がタッグを組めないのは、そもそも負け戦。そこでようやく、医科歯科連携が叶うようになりました。

糖尿病治療の照会制度

シュンデンタルクリニックでは、今後、糖尿病治療を行なっている医師と連携するため患者さまより「糖尿病の申告」があった場合は、診療情報の照会をお願いすることがございます。

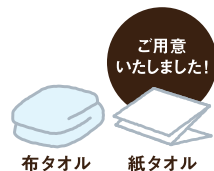
歯周病と糖尿病が無関係ではないことがわかった現在、治療のタッグを組むべく連携することが、より良い治療を提供する前提になっているためです。

問診の際に、糖尿病についてお伺いすることがございますが、これまでにお話しした内容が根本にあるため、ぜひ承諾いただければと存じます。



お知らせ

現在、治療の際に、患者さまのお顔を覆うのにタオルを使っておりますが、紙製もご用意いたしました。タオルの洗剤や柔軟剤の匂いが気になる方は、遠慮なく歯科衛生士までお申し付けください。



シュンデンタルクリニック

〒041-0802 北海道函館市石川町 461-38 TEL 0138-47-3737

<http://shundc.jp/>